

令和7年度 西東京市立田無第三中学校 学校評価計画表

学校教育目標	よく考えずすんで実行する人間になろう 課題解決に向けてやり抜く力	思いやりのある心豊かな人間になろう 互いに尊重し、協働する力	丈夫な体をつくり心身ともに健康な人間になろう 自律的に健康な生活を営む力
--------	-------------------------------------	-----------------------------------	---

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 笑顔とまごころがあふれ、夢を育む学校 ○安心して自らの可能性を伸長できる ○信頼でき、協力したくなる ○主体的に課題解決できる
【目指す生徒像】 自治：社会自立に向けて、自らを高め合う生徒 ○自ら課題を見付け計画を立てて実行できる ○相手の立場を理解し協力できる ○心身ともに意欲的に取り組む
【目指す教師像】 生徒に寄り添い、挑戦を支援する教師 ○学び合う教師 ○寄り添う教師 ○信頼される教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
 確かな学力や学習意欲の向上に係る取組について、生徒・保護者からの評価は肯定的な回答が多かった。家庭学習の定着に向けて、学習の方法を更に丁寧に指導していく必要がある。豊かな心の育成に係る取組については、学校行事や生徒会活動における自治的活動の評価が、生徒・保護者ともに肯定的な意見が多かった。読書の習慣化に向けた取組については、工夫の必要がある。

	具体的方策	第1回評価	課題と対策	第2回評価	学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
確 学 か 習 な 意 学 力 の 向 育 成 と	課題発見→計画予想→実行→振り返りの学習過程を重視した授業を展開する。	3.3	教員の肯定的な回答が91%となっているが、生徒は83%であった。この差を縮めるためには、授業で、課題を解決するための学習過程を意識できていない生徒に意図的に経験させることを継続していく必要がある。	3.3	授業改善について、教員は幅広く自己評価しているのではないが、一方で、生徒は、この授業の形式に慣れ、定着が図られているようである。保護者には日々の授業を参観はできないので、達成については正直なところ分からないのが実情ではないか。	教員の肯定的評価委が第1回評価から11%下がった。たのに対し生徒評価は11%向上した。生徒の学び方の理解は深まっている。今後は、振り返りの場面で学びの実感を促すこと重点的に行い、生徒が自身の成長を自覚できる仕組みを整える。また、今後も授業改善の研究をさらに深めて、確かな学力向上に繋げる。
	学習課題や学習活動を選択、自己決定したり、協働しながら学びを深める授業を展開する。	3.3	教員の肯定的な回答が85%であった。授業の中で生徒に自己決定させる場面を意図的に設定する授業作りを進めていくことで生徒に学び方を身に付けさせたり、意図的に生徒同士で意見を交換する場面を設定したりするなど授業改善を継続する。	3.0	定期考査の学習計画について、保護者の確認が事後になっているので、生徒が実行しているかのプロセスが見えていない。	教員の肯定的な回答は90%に向上したが、保護者の回答で8%減であった。生徒は自己決定や協働的な活動について理解してきているため、生徒の学びの姿を家庭にどのように伝えていくか。そのための手立てを講じていきたい。
	定期考査等に向けた学習計画や家庭での学習方法についての指導を充実させる。	2.3	教員の肯定的な回答が86%であり、目標の90%を下回っている。その結果が生徒にも影響していると考えられる。作業的に生徒に計画を立てさせるのではなく、その意義を指導する。また、質問教室・自習教室の参加を促していく。	2.7	生徒自身も自治的な活動について充実感をもって取り組んでいて大変良い。	教員は90%を達成したが、生徒69%、保護者68%と低く推移している。学校の取組について、生徒保護者共に実感できていない。次年度は年間の見直しをもてるよう学習の手引を見直し、学校と家庭が一体となって生徒の学習習慣を支える体制を構築する。
豊 か な 心 の 育 成	生徒同士の話し合い活動や自主的な活動を充実させる。	3.7	教員の肯定的な回答95%、生徒は94%であり、教員と生徒で同じ認識の下で活動することができている。保護者の方に分かりにくい点であるため、授業公開や振り返りを保護者に見てもらおうなどの手立てを講じたい。	3.7	相談しやすい環境づくりについて、生徒は、肯定的な回答がやや下がった。要因については分析していく必要がある。	生徒96%となり、多くの生徒が活動の充実を実感しているが、一部に馴染めていない生徒がいる。話し合いに苦手意識を持つ生徒への支援策を再考し、全員が役割をもって、主体性と対話の質をさらに高める取組を行っていく。
	年間5回の面談や日常において相談しやすい環境を整備する。	3.0	教員は、肯定的な回答95%であるが、生徒は87%に留まっている。引き続き「西東京あったか先生」の理念を基に、生徒が相談しやすい雰囲気を整備するとともに、面談の方法を工夫する。	3.0	教員・生徒・保護者共に肯定的な回答が多く、安心安全に学校生活を送ることができている生活指導ができていると感じる。学校行事については、どの行事も生徒の充実感や達成感を十分に味わわせることができたと捉えてよい。読書の取組についても年間を通して、改善が見られるようになった。日常的に本に親しむ取組を今後も継続してほしい。	本校の生活指導について生徒や保護者の理解は十分に得られている。今後は、生徒が自らより良い生活を築く実践力を養い、協働しながら安心して生活できる環境を作ろうとする風土を醸成していく。
心 身 の 健 康 と 強 い 意 志 の 育 成	凡事徹底や「挨拶・時間・身だしなみ」の徹底、規律と秩序ある生活を推進する。	3.7	教員の肯定的な意見は、100%であった。全校で規範意識を育てていく意識ができている。生徒や保護者も90%前後の肯定的な認識である。10%程度満足できていないとの回答にも着目し、全教員で統一した指導ができるようにしていく。	3.7	情報公開については、保護者から高い評価をいただいている。今後も積極的な情報発信に期待したい。教員の負担感の軽減については、保護者の期待と学校としてできることのすり合わせは今後も検討してほしい。	本校外の生活指導については、どの行事も生徒の充実感や達成感を十分に味わわせることができたことと捉えてよい。読書の取組についても年間を通して、改善が見られるようになった。日常的に本に親しむ取組を今後も継続してほしい。
	学校行事等や生徒会活動等において、生徒が主体的に活動する場を設定する。	3.3	教員97%、保護者89%が肯定的な回答であった。学校と家庭で学校行事が大切である認識をもっている。生徒で10%程度満足していないことに着目し、一人一人が達成感を味わわせるような振り返りを行っていく。	3.7	積極的な情報公開が保護者からは好評である。報告や連絡に留まらず、家庭内での会話のきっかけ作りなど、家庭でのコミュニケーションのきっかけとなるように今後も促していきたい。	教員95%、保護者90%の肯定的な回答であった。生徒が主体的に活動していることについて、保護者の理解も得られている。生徒の11%が満足していない様子が見られるため、より多くの生徒が一体感をもって活動に参画させられる取り組み方を再考したい。
	朝読書や読書に関わる活動を実施し、読書に親しみ、読書習慣が身に付くようにする。	2.5	読書活動の充実について、肯定的な回答が教員72%、生徒59%と改善する余地がある。読書週間の取組や読書郵便などの読書の充実を促す活動の充実を図っていく。	3.0	2学期に取組が増え、教員90%、生徒64%と改善が見られた。次年度は、生徒がより意欲をもてる環境づくりや読書の楽しさを共有する機会を増やすなど、読書習慣の定着を図る取組を続けていく。	
学 校 づ くり	学校便りやホームページ等を通して、教育活動を積極的に公開・発信する。	2.5	保護者の肯定的な回答が98%と学校の積極的な広報について一定の理解をいただいている。生徒の認識が低いことが気になった。配布物のペーパーレス化の影響についても考察したい。	2.5	教員の多忙感、負担感については、引き続き大きな課題である。ボランティアの積極的登用など、教師が授業研究に取り組めるとともに、公私ともに充実する時間の確保に引き続き努めていく。	
業 務 改 善	会議や学校行事の精選、ライフワークバランスについて各教職員が目標をもち取り組む。	2.0	教員の多忙感、負担感については、引き続き大きな課題である。ボランティアの積極的登用など、教師が授業研究に取り組めるとともに、公私ともに充実する時間の確保に引き続き努めていく。	1.0		教員の多忙感、負担感については、引き続き大きな課題となっている。会議の更なる精選や、勤務時間内で業務が完結するような時程の工夫を図っていく。業務の効率化とライフワークバランスの実現を組織的に推進する職場風土を醸成する。